

竹材の園芸利用

緑環境景観マネジメント研究科 札埜 高志

**キーワード** 放置竹林、竹粉、園芸培養土、DWファイバー**研究概要**

近年、放置竹林の拡大が西日本を中心に問題となっています。古来より日本では竹が日常生活に欠かせない生活用品として利用されてきましたが、戦後の生活水準の向上に伴い、日常生活で使用される竹製品は種類・量ともに激減しました。武製品が使われなくなった結果、放置竹林の面積は拡大傾向にあります。この放置竹林の拡大を抑制するためには、竹材の新たな用途を考案する必要があると思われます。そこで、花卉や野菜の鉢栽培における園芸培養土への竹材の利用について研究を行っています。イチゴやトマト、花苗を竹材配合土で栽培すると、慣行配合土で栽培したものよりも生育は劣るが、竹材配合土に標準施肥量の2、3倍施与すると、トマトやフレンチマリーゴールドの生育は慣行配合土で栽培したものと同程度になることを明らかにしました。さらに、竹材を特殊解繊処理し、植物の生育促進効果のあるフルボ酸を添加した竹材DWファイバーの園芸培養土への利用適性についても研究を行っています。竹材DWファイバーには様々な特性がありますが、特に保水性の高さに着目した利用手法を試しています。

アピールポイント

竹粉を土壌改良材やマルチ素材として利用を試みた研究は数多く報告されていますが、竹粉を培養土そのものに利用しようとした研究は他にはみあたりません。また、地域の企業と連携して竹材の積極的な消費につなげています。

応用分野

本研究の成果は、放置竹林拡大の抑制、新たな鉢物商品開発などに貢献できると考えられます。